環境対応 10/100BASE-TX/FX リモート監視機能付メディアコンバータ　2015.4.1(5 版)

DN5700Eシリーズ（Rev. C以降）

取扱説明書

安全にご使用いただくために（使用上の一般的注意事項）

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。
URL http://www.dyden.jp/network/

ご使用の前に必ずお読み下さい。

指定用途以外には使わないで下さい！
10／100BASE－TX の光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。
また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！
取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！
誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！
使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！
本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！
本製品は、人命に関わる場合（医療、航空、原子力、軍事等）や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。
従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわりなく、弊社は一切の責任を負いません。
お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社　　弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

⚠ 警告

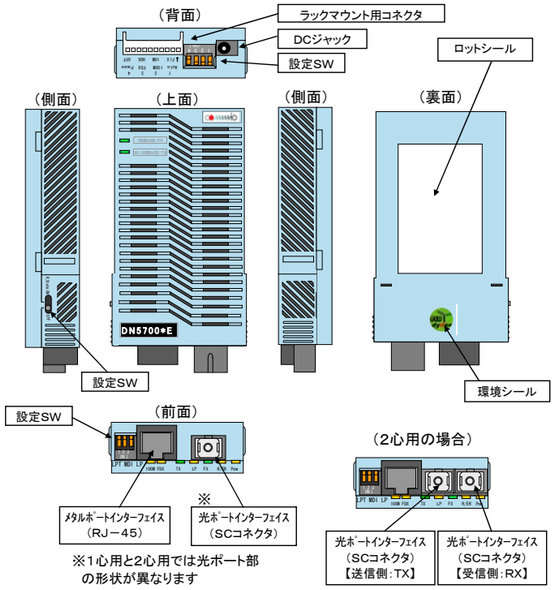
・**交流100～240V以外で使用しないで下さい。**
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
・**ACアダプタは専用のものを使用して下さい。**
火災や感電、故障の原因となります。
・**ACアダプタはACコンセントに確実に差込んで下さい。**
ACアダプタの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
・**水につけたり、水をかけたりしないで下さい。**
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
・**浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。**
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
・**専用ACアダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。**
機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。
・**静電気注意！**
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分・UTP ポート・部品などに素手で触れないで下さい。

⚠ 注意

・ **ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体部を持って抜いて下さい。**
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
・ **濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないで下さい。**
故障や感電の原因となることがあります。
・ **本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。**
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
・ **本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。**
内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
・ **放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。**
内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
・ **本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。**
火災や故障の原因となることがあります。
・ **本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。**
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
・ **本装置はクラス1レーザ製品です。**（該当製品：S,L,Z,WSG,WL,WX,WZ）
クラス１レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。
・ **光コネクタ清掃のお願い。**
本装置は光ファイバとの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光トランシーバ内に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くようお願いします。

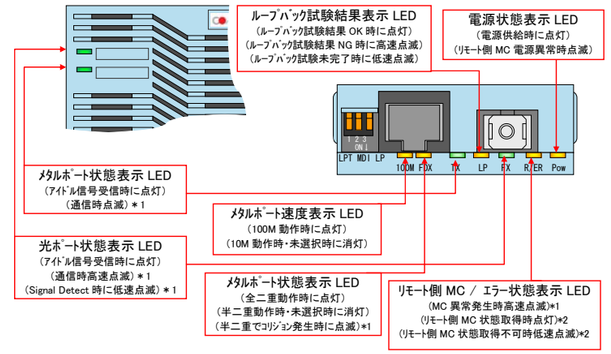
1. 装置各部の説明／付属品

本　　体



※1心用と2心用では光ポート部の形状が異なります

表　示　Ｌ　Ｅ　Ｄ

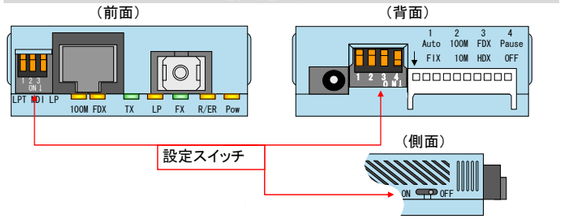


＊1：R_State ON 時（リモート側 MC 状態表示時）は対応いたしません。
・R_State ON 時は、メタルポート状態表示 LED（TX,10/100BASE-TX,FDX）、速度表示 LED（100M）、光ポート状態表示 LED(FX,100BASE-FX)はリモート側 MC の状態を表示します。
・R_State ON 時は、リモート側 MC/エラー状態表示 LED はリモート側 MC 状態取得時に点灯し、リモート側 MC 状態取得不可時に低速点滅します（高速点滅はいたしません）。
※光ポートがリンクダウン時および光側対向機器が監視対象機器でない場合は、リモート側 MC の状態取得ができず各 LED は消灯し、R/ER LED が低速点滅となります。
ただし、LPT 有効設定にて対向側の UTP 断が発生した場合には Link 状態を表示できるため、光側の Signal Detect とともに障害発生箇所の切り分けに使用可能です。

＊2：R_State OFF 時（本装置状態表示時）は対応いたしません。

※Signal Detect：対向機器から信号を受信している状態です。Link Up 状態とは異なります。

設　定　Ｓ　Ｗ



スイッチの設定と動作モード（前面スイッチ）

1：LPT（**L**ink **P**ass **T**hrough Mode）
リンク連動機能の設定を行います。
「LPT」が ON の場合には、UTP側もしくは光側のリンク断が発生した際に、他方へのアイドル信号送信を停止します。（詳細は 2.概要 【リンク連動機能について】参照）
「LPT」が OFF の場合は、UTP側と光側は独立してリンクを確立します。

2：MDI（**MDI** Mode）
UTP 側のピン配置（MDI/MDIX）の設定を行います。
「MDI」が ON の場合には、MDI 配列で動作し、OFF 時は MDIX 配列で動作します。
なお、「Auto」設定時または「LPT」設定時は AutoMDI-X（自動配列）での動作となります。

3：LP（**L**oop**b**ack Mode）
ループバック試験の設定を行います。
試験結果については「LP」LED にて確認いただけます。
「LP」が ON の場合は、ループバック試験を実施します。
（詳細は 2.概要 【ループバック試験機能について】参照）

スイッチの設定と動作モード（側面スイッチ）

1：R_State（**R**emote MC **State** Mode）
表示 LED の設定を行います。
「R_State」が ON の場合はリモート側 MC の状態を表示します。
（詳細は 2.概要 【リモート監視機能について】参照）

スイッチの設定と動作モード（背面スイッチ）

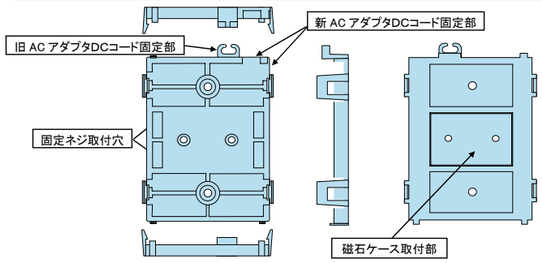
1：Auto（**Auto**negotiation）/**FIX**（**FIX**）
UTP 側の通信速度及びモードを接続先の機器に合わせて自動設定します。
接続先の機器の速度及びモードが固定設定となっている場合には、本装置も固定設定にする必要がありますので「FIX」にして下さい。
対向器がアイドル信号を受信しない限りは、信号の送信をしないような機器（DN-2600 シリーズ）をリンク連動設定で使用する場合など）とはリンクアップできません。

2：100M（**100M**bps）/10M（**10M**bps）
UTP 側の通信速度を 100Mbps（100BASE-TX）もしくは 10Mbps（10BASE-T）に固定します。
「FIX」にしないと有効になりません。

3：FDX（**F**ull **D**uplex）/ HDX（**H**alf **D**uplex）
UTP 側の通信モードを全二重（Full Duplex）もしくは半二重（Half Duplex）に固定します。
「FIX」にしないと有効になりません。

4：Pause（**Pause**）/**OFF**
内部バッファがオーバーフローした場合にデータを送信している機器に対して送信待機を促すための信号（全二重時には Pause 信号、半二重時には JAM 信号）を送信します。

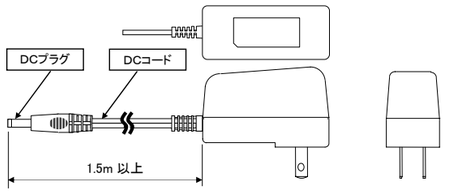
固　定　用　ホ　ル　ダ



磁石ケース＆取付ネジ（M2.5×L3mm,2 本）

※出荷時に固定用ホルダに組込まれています。

Ａ　Ｃ　ア　ダ　プ　タ

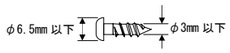


別　　売　　品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。
・ツイストペアケーブル：
TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリー5 以上の UTP ケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。
※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。
※UTP ケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。

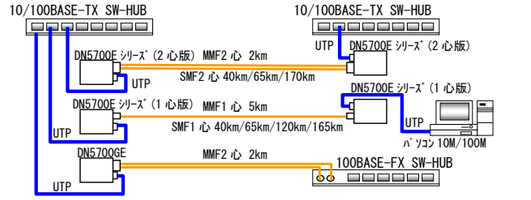
・コネクタ付光コード：
【MMファイバ用（G, WSG）の場合】
石英系マルチモード光ファイバ（1.3μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz･km 以上のもの）に SC コネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上の PC 研磨をご使用下さい。
（平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります）
【SMファイバ用（S, L, Z, WSG, WL, WX, WZ）の場合】
石英系シングルモード 1.31μm 帯ゼロ分散形光ファイバに SC コネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
WX, WZ, Zタイプは石英系シングルモード 1.55μm 帯ゼロ分散形光ファイバ（DSF ファイバ）も使用可能です。
※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上の PC 研磨をご使用下さい。
（平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります）

・固定用ねじ：
本装置をねじで固定する場合には、呼び径3以下（ねじ頭 6.5mmφ以下）のねじを使用して下さい。

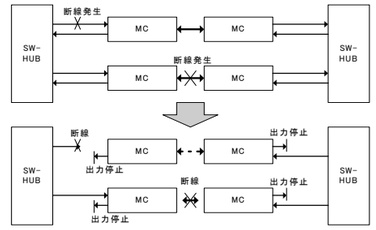


2. 概要

本製品はUTPによる10BASE-Tまたは100BASE-TXの信号を光信号（100BASE-FX）に変換するメディアコンバータです。
ネットワークの通信媒体であるツイストペア線を光に変換することで屋外へのリンクセグメントの配線を可能にします。

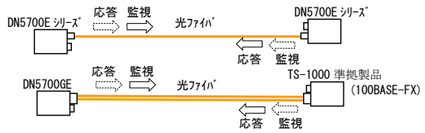


【リンク連動機能について】
本製品にはリンク連動機能（LPT機能）があります。リンク連動とは、メディアコンバータ（MC）で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するSW-HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW-HUBが伝送路の切断を認識できます。
例えばSW-HUBのマルチポートトランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。
※本装置をLPT設定にした場合、UTP側がリンク断すると光側に擬似データを送出します。（DN2800Eシリーズと光で対向する場合は、DN2800Eシリーズもリンク連動の設定で使用して下さい。DN2800Eシリーズをリンク連動の設定にしていないと擬似データをUTP側に転送します。）
※対向機器の仕様によってはリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。
あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。



本製品はTTC（Telecommunication Technology Committee）標準 TS－1000（オプションB)準拠で、下記の機能をサポートします。

【リモート監視機能について】
本装置にはリモート監視機能があります。リモート監視機能とは、光側対向 MC の速度設定状態や動作状態、リンク状態を監視する機能です。各状態は側面 SW の R-StateSW を ON にすることで、本装置の LED で確認が可能となります(LED の詳細については1. 装置各部の説明／付属品の本体 LED を参照下さい)。リモート監視機能の対象は、5700E シリーズおよび 5800E シリーズのみとなります（6800E シリーズが間に入っていても監視機能は有効です）。



※DN5700GE 時に 100BASE-FX で TS-1000 準拠製品と対向時も監視は可能です。ただし、OAM パケットでの状態取得に対して応答しない場合は監視できませんので、あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。
※本装置は光側リンクアップ時に OAM パケットを送出するため、2800E シリーズ等のリピータタイプの MC と接続すると OAM パケットがリピータタイプ MC の UTP 側へと転送されます。

【リモート設定機能について】
本装置を SNMP 搭載のラック実装にて、光側対向 MC の設定が可能です（6800E シリーズが間に入っていても設定機能は有効です）。ただし、設定機能に関しては 5700E シリーズのみの対応となり、他社の TS-1000 準拠製品では設定できません（設定方法の詳細についてはラックの取扱説明書を参照下さい）。

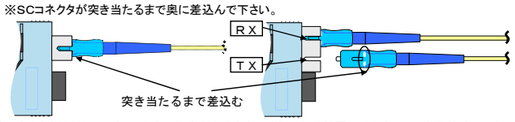
【ループバック試験機能について】
本製品にはループバック試験機能があります。ループバック試験機能とは、光側でのテストパケットの伝送により光伝送路の異常がないかを確認する機能です。ループバック ON 設定時に一度だけループバック試験を実施します。試験結果については設定が OFF になるまで保持され、LED にて表示します（SNMP からの設定の場合は、ラックの取扱説明書を参照下さい）。ループバック試験機能の対象は、5700E シリーズのみとなります（6800E シリーズが間に入っていてもループバック試験機能は有効です）。
※ループバック試験時は光間で折り返しての伝送となるため、通常の通信は停止し（約 1s）、UTP 側からのパケットは破棄されますのでご注意下さい。

※SNMP でのリモート監視・設定およびループバック試験機能の設定は、SNMPⅢでの対応となり、SNMP や SNMPⅡでは未対応となります。

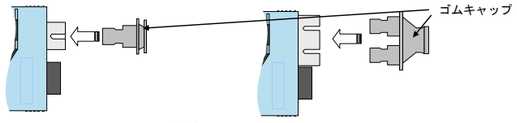
3. ケーブルの接続

光 コ ネ ク タ の 接 続

【各シリーズ共通注意事項】
①光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの曲げ半径を 30mm以上確保して下さい。
②SCコネクタがロックされていることを確認して下さい。
※SCコネクタが突き当たるまで奥に差込んで下さい。



※光コネクタを接続していない時は、ゴミなどが入らないように必ず付属のゴムキャップを取付けて下さい。



【1心用（WSG, WL, WX, WZ）の場合】
対向側に同じシリーズ（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）の波長違いが接続されていることを確認し、本体にSCコネクタを接続して下さい。
※DN5700WSG3E⇔DN5700WSG5E or DN5800WSG5E or DN2800WSG5E or DN5700WS5E or DN5800WS5E or DN2800WS5E or DN5700WG5E or DN5800WG5E or DN2800WG5E(※1)
DN5700WSG5E⇔DN5700WSG3E or DN5800WSG3E or DN2800WSG3E or DN5700WS3E or DN5800WS3E or DN2800WS3E or DN5700WG3E or DN5800WG3E or DN2800WG3E(※1)
DN5700WL3E⇔DN5700WL5E or DN5800WL5E or DN2800WL5E
DN5700WL5E⇔DN5700WL3E or DN5800WL3E or DN2800WL3E
DN5700WX5E⇔DN5700WX6E or DN5800WX6E or DN2800WX6E
DN5700WX6E⇔DN5700WX5E or DN5800WX5E or DN2800WX5E
DN5700WZ5E⇔DN5700WZ6E or DN5800WZ6E or DN2800WZ6E
DN5700WZ6E⇔DN5700WZ5E or DN5800WZ5E or DN2800WZ5E
※DN6800E シリーズ(FE ﾓｰﾄﾞ時)も同様に接続可能です。
※1：対向機器の仕様に合わせてご使用下さい。

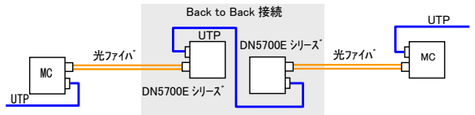
【2心用（G, S, L, Z）の場合】
対向側に同じ型番の製品（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）が接続されていることを確認し、本体にSCコネクタを接続して下さい。対向側の TX 部と本体側の RX(本体右側)部、対向側の RX 部と本体側の TX(本体左側)部と接続して下さい。
※DN5700GE⇔DN5700GE or DN5800GE or DN2800GE or 100BASE-FX 機器
DN5700SE⇔DN5700SE or DN5800SE or DN2800SE
DN5700LE⇔DN5700LE or DN5800LE or DN2800LE
DN5700ZE⇔DN5700ZE or DN5800ZE or DN2800ZE
※DN6800E シリーズ(FE ﾓｰﾄﾞ時)も同様に接続可能です。

設 定 時 の 注 意

①UTP 対向側の機器が固定設定（速度・モード）の場合には、必ず本装置も対向機器の速度・モードと同じになるよう固定設定にして下さい。
※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップする可能性があります。

②LPT 設定時は対向接続したメディアコンバータの設定も LPT 設定にして下さい。
※対向機器を LPT 設定にしていないとリンク状態を伝えることができないため LinkAggregation 等のトランキング用途で正常に動作しない可能性があります。
※対向機器をLPT設定にしていないと、障害発生時に本装置が出している擬似データが対向機器に転送される可能性があります。

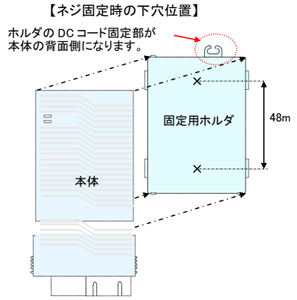
③本装置を Back to Back 接続により伝送距離の延長化を図る場合、本装置と UTP で対向して接続する機器が LPT モードに設定されているとリンクアップできない場合があります。Back to Back 接続を行う場合は、本装置及び対向機器の LPT モードを解除してご使用下さい。



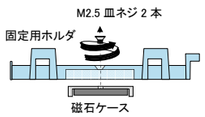
6. 装置の取付け

本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。
横置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。
金属部に磁石で固定する場合には、付属の固定用ホルダに磁石ケース取付けて下さい。（出荷時に取付け済み）
壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを取外して堅牢な壁面等に木ネジ等で取付けて下さい。
磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

【ネジ固定時の下穴位置】

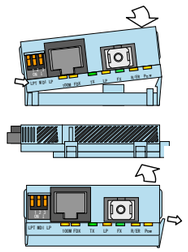


【ネジ固定時の磁石ケース取外し】



※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側面の爪に引掛けてから反対側を押込んで下さい。
前面部の抑えは裏面穴部に収まります

※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪（前後 2 箇所）を軽く開きながら本体を引抜いて下さい。



7. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

Pow LED が点灯しない

確認①：AC アダプタは専用のものを使用していますか？
確認②：AC アダプタの本体部はコンセントにきちんと根元まで接続されていますか？
確認③：AC アダプタの DC プラグ部はメディアコンバータ本体の DC ジャック部にきちんと根元まで接続されていますか？
確認④：光側対向機器の電源は入っていますか？（Pow LED が点滅の場合）

TX LED が点灯しない

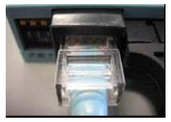
確認①：モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？
確認②：接続相手機器の電源は入っていますか？
確認③：接続相手の機器の設定は本装置の設定と合っていますか？
本装置は速度固定時には MDI の SW が有効になり AutoMDI-X では動作しません(LPT 無効設定時)。
確認④：ケーブルは全て接続していますか？
リンク連動（LPT）設定時には UTP 側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。
確認⑤：Back to Back 接続の場合はリンク連動機能を解除していますか？
Back to Back 接続時、リンク連動機能は対応していません。
確認⑥：UTP ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？
代わりのUTPケーブルで接続してみて下さい。

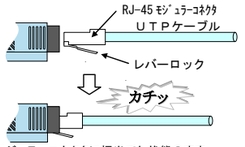
FX LED が点灯しない

確認①：光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか？
コネクタの端面を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善されなかった場合には汚れが光トランシーバ内に付着している可能性がありますので、光トランシーバ内の清掃を行って下さい（清掃が不可能な場合は一旦返却下さい）。
確認②：接続相手機器の電源は入っていますか？
確認③：接続相手の機器は 100BASE-FX 対応機器ですか？【Gタイプ】
Gタイプ以外は同一機種（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）と接続して下さい。
確認④：ケーブルは全て接続していますか？
リンク連動（LPT）設定時にはUTP側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。
確認⑤：光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？
1 心用（WSG, WL）タイプは 1.3μm 及び 1.5μm の波長帯を用いた光伝送を行いますので、光伝送路は 1.3μm 帯/1.5μm 帯のいずれの波長帯においても光許容損失値内である必要があります。また、WX, WZも同様にいずれの波長帯においても光許容損失値内である必要があります。
確認⑥：低速点滅していませんか？
対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。光ポートの送信側が一心断となっている可能性があります。光ポートの状態、光ケーブルの状態をご確認下さい。

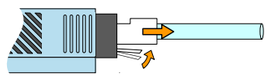
ＵＴＰケーブルの接続

RJ－45モジュラーコネクタを取付けたUTPケーブルを、本体のモジュラージャックに接続して下さい。
※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。



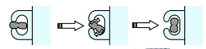


※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロック状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。



ＡＣアダプタの接続

【旧 AC アダプタ（**白地に黒文字シール/太径 DC コード品**の場合】
①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面部（旧 AC アダプタ DC コード固定部）に DC コードを引掛けて下さい。
※ケーブルを縦（細い）方向にした状態で固定部に挿入し、ケーブルを 90 度回転させると抜けなくなります。



②DC プラグを本体背面の DC ジャック部に接続します。
※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

【新 AC アダプタ（**黒地に白文字シール/細径 DC コード品**の場合】
①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部（新 AC アダプタ DC コード固定部）に DC コードを引掛けて下さい。

②DC プラグを本体背面の DC ジャック部に接続します。
※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

最後に電源プラグ（AC アダプタの本体部）を AC コンセントに確実に差込んで下さい。
※AC アダプタは専用のものをお使い下さい。
細径 DC コードを太径 DC コード固定部に取付けると抜ける場合がありますので注意下さい。

100M／FDX LED が点灯しない

確認①：UTP ポートはリンクアップしていますか？
Autonegotiation 設定時は、リンクアップ時に速度とモードの状態を表示します。
確認②：速度及びモードの設定は合っていますか？
本装置を Autonegotiation 設定にしている場合、UTP で接続している機器が全二重固定設定だと本装置は半二重でリンクアップします。UTP で接続している機器を Autonegotiation 設定にするか、本装置を対向機器と同じ速度及びモードに固定設定して下さい。また、本装置の速度及びモードを固定設定とした場合、UTP で接続している機器が本装置と異なる設定の場合には設定とは異なる状態でリンクアップする場合がありますので、固定設定をする場合には必ず同設定にして下さい。

ループバック試験ができない

確認①：光側対向 MC は対象製品ですか？
光側対向器が同製品および TS-1000 準拠製品のみでしかループバック試験はできません。また、本装置及び光側対向器の光側がリンクアップしていないとループバック試験はできません（ループバック試験未完了で LP LED が低速点滅します）。

R/ER が点滅する

確認①：光ポートはリンクアップしていますか？
光ポートがリンクアップしていない状態で「R_State」スイッチが ON になっていると、リモート側MCの状態取得ができず「R/ER」が点滅します。
確認②：光側対向 MC は対象製品ですか？
同製品および TS-1000 準拠製品のみでしかリモート監視はできず、「R_State」スイッチが ON になっていると、リモート側 MC の状態取得ができず「R/ER」が点滅します。
確認③：電源は正常に入力されていますか？
「R_State」スイッチが OFF 時に点滅している場合は、本装置内部電源の異常発生です。電源を一度 ON/OFF して、下さい。電源再投入後も点滅状態のままであれば一旦返却下さい。

LED の表示が設定と合っていない

確認①：SNMP で設定をしていませんか？
ラックオプション（DNHD12E 等）に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっていると、その設定で動作します。
確認②：ローカル側 MC から設定されていませんか？
ローカル側機器をラックオプション（DNHD12E 等）に実装してご使用されている場合、ローカル側の SNMP モジュールから本装置の設定が可能となります。本装置をラックオプション実装時には設定状態（ハード SW／SNMP モジュールからの設定／ローカル側 MC からの設定）を確認することができます（詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書をご確認下さい）。ラックオプション未実装時には、スイッチにて設定を変更することでスイッチ設定状態での動作に戻すことが可能です。
確認③：LED の表示モードがリモート側 MC 状態表示の設定になっていませんか？
「R_State」スイッチが ON になっていると表示 LED はリモート側 MC の状態を表示します。

設定が変更できない

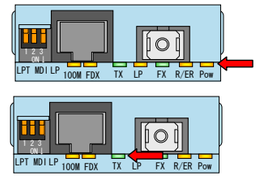
確認①：SNMP で設定をしていませんか？
ラックオプション（DNHD12E 等）に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっていると、本装置の設定スイッチを切替えても設定は反映されません。SNMP モジュール側で設定を解除してみて下さい（詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書をご確認下さい）。

特定のパケットだけ通信できない

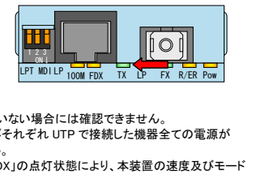
確認①：2047Byte以上のパケットではないですか？
本製品は6パケット長のチェックを行っています。ショートパケット（63Byte 以下）や 2047Byte 以上のロングパケットおよびエラーパケットは破棄しますので、ご使用のパケット長をご確認下さい。

4. 接続状態の確認

電源の確認
添付の AC アダプタを AC コンセントに差込み、DC プラグ本体に接続した状態で本体表示 LED の「Pow」が黄色に点灯していることを確認して下さい。

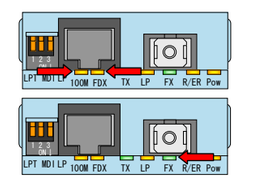


UTPケーブルの確認
UTPケーブルを 10/100BASE-TX 対応の機器（パソコンやルーター、スイッチングハブ等）に接続し、本体表示 LED の「TX」が緑色に点灯（もしくは点滅）することを確認して下さい。
※UTP を介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※LPT 設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP で接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していなと確認できません。
※リンクアップした状態で、本体表示 LED の「100M」と「FDX」の点灯状態により、本装置の速度及びモードを確認して下さい。ただし、固定設定（速度・モード）の場合には、リンクダウンした状態でも本装置の速度及びモードを確認することができます。



「100M」点灯，「FDX」点灯・・・・・100M全二重
「100M」点灯，「FDX」消灯・・・・・100M半二重
「100M」消灯，「FDX」点灯・・・・・　10M全二重
「100M」消灯，「FDX」消灯・・・・・　10M半二重

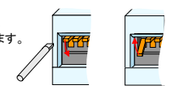
光ケーブルの確認
光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示 LED の「FX」が緑色に点灯（もしくは点滅）することを確認して下さい。
※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※LPT 設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP で接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していなと確認できません。
※光経路についてはループバック試験でも確認可能です。



5. SWの設定及び注意

S W の 設 定

SW の設定は、精密ドライバー（マイナス）やシャープペン等先の細いものを用いて SW レバーを押下げ（または押上げ）て下さい。
※前面 SW は下向きで「ON」となり、背面 SW は下向きで「OFF」となります。



※設定を変更した際は、本装置は自動的にリセットされ初期化します。設定変更時以外は不用意に SW に触れないように注意して下さい。「LP」および「R_State」の SW ではリセットされません。

※別売のラックオプション（DNHD12E 等）に本装置を実装して、オプション品「SNMP ユニット」から設定を行っている場合には、手動による SW の設定が有効になりません（「LP」および「R_State」SW は有効です）。

環境対応 10/100BASE-TX/FX リモート監視機能付ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾊﾞｰﾀ
DN5700E シリーズ 保証書

ロットNo. S／N（ロットシールに記載）	

お客様（御社名）		
お名前（ご担当者名）		
お客様	ご住所	
	TEL	
	FAX	
ご購入日		年 月 日
保証期間		ご購入日より5年間（センドバック式）
販売店		
販売店	住所	
	TEL	
備考		

＊保証外条件
保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。
1. 取扱説明書に記載の使用方法や注意事項反するお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷
2. ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
3. 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変及び指定外の使用電圧による故障及び損傷

『営業窓口』 大電株式会社 ネットワーク機器部 営業課
ｺｰﾙｾﾝﾀｰ(ﾃｸﾆｶﾙｻﾎﾟｰﾄ窓口) 0120-588-545（携帯・PHS にも対応）
e-mail：commnio@dyden.co.jp
東　京：〒113-0033 東京都文京区本郷 2-3-9 ツインビュー御茶ノ水3階
TEL（03）5684－2100【代表】
名古屋：〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜 1-1-6 住友商事名古屋ビル5階
TEL（052）951－1414【代表】
大　阪：〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 4-7-28 住友ビルディング2号館1階
TEL（06）6229－3535【代表】
九　州：〒849-0124 佐賀県三養基郡上峰町 2100-19
TEL（0952）52－8546【代表】